



五中だより

府中市立府中第五中学校

校長 酒井 泰

令和2年2月27日 No.9

「ピンクシャツデー」の取組

生徒会本部役員の生徒の発案により、いじめ撲滅のための「ピンクシャツデー」の取組が行われました。生徒一人一人が「いじめに対しての心構え」や「いじめられ、つらい思いをしている人への励ましの言葉」などをピンク色のシャツ型をした紙に書き、それを校内に掲示しています。校長の私もメッセージを書きました。無記名なので自分の書いたシャツ型の紙がどこにあるのかを探す生徒の姿をよく見かけました。2月14日を本校のピンクシャツデーに設定して行われたこの取組は、掲示物だけでなく、全員に渡すキーホルダーも作成しました。作成に当たっては、ボランティアを募り、自主的に集まったメンバーで一生懸命作成してくれました。私は、生徒が今回の取組について、「ぜひやりたい」と希望を出したことを本当にうれしく思っています。自分たちの学校をよりよくするための行動を自分たちで考え、具体的な取組にまで高めるといことは大変な努力が必要なことです。それにもかかわらず、その労力を厭わず、「ぜひやってみたい」と声を上げてくれたことに感謝します。

また、こうした生徒の声を正面から受け止めて、実現に向けて努力した五中の先生方にも感謝したいと思います。授業や学校行事、部活動指導など様々な仕事がある中で、生徒の気持ち等を第一に考え、実現に向けて調整をしてくれていること、本当に嬉しく思います。生徒と教員が五中を良くしたいという気持ちで一体となって取り組むことができている姿がここにあり、心強く、誇らしく思います。

私は、生徒たちに機会ある度に、「ボランティアに参加する生徒が増えてきていることが嬉しい」と話してきました。それは、自分のやるべきことをきちんとやった上で、他の人のためになることに取り組むことができるようになった生徒が増えているということの証だからです。これからも、生徒が様々なアイディアを出し、具体的な取組を行うことで、より一層、五中が良くなるようにみんなで努力していきたいと思っています。



※「ピンクシャツデー」とは、2年生の道徳科の教科書に載っている題材で、カナダの男子中学生がある日、ピンクのTシャツを着て登校したところ、そのことを揶揄され嫌な思いをしていた。その姿を見た仲間がその中学生を救おうと学級の生徒全員でピンクのTシャツを着てきて、何もおかしいことではないということを行動で示しました。その日をいじめ撲滅の日という意味を込めて、ピンクシャツデーと名付けたという話です。

新型コロナウイルスによる肺炎の防止に向けて

2月26日付けの通知にてご連絡申し上げました通り、新型コロナウイルスによる肺炎の罹患防止を徹底するために、3月15日（日）までの学校行事等につきまして中止等の決定

をさせていただきました。これに伴い、授業の内容や時間割の変更が発生することがありますが、生徒の安全確保と、学校の教育活動の維持を第一に考えた対応ですので、保護者や地域の皆さまにご理解とご協力をお願いしたいと思います。なお、学年末考査後に再開されました給食につきましても、班単位で向かい合って食べていたものを全員が前を向いて食べる方法に変更していますのでご承知おきください。学校では、各教室にアルコール消毒用の容器を用意し、生徒に積極的に利用するように指導しております。

ご家庭におかれましては、うがい・手洗いの励行、マスクの着用などのせきエチケットの順守などにつきまして、引き続きご協力をいただきますようお願い申し上げます。

また、朝礼で「新型コロナウイルス感染による肺炎」が拡散し、毎日のように、罹患した人の数が増えて、本当に心配な状況となっていることを受けて次のことを生徒に指導しました。「新型コロナウイルス感染による肺炎に罹患する人が増える中、皆さんに注意してほしいことがあります。それは、この新型コロナウイルスに関連して、人を傷つける心ない言動をしないようにしてほしいということです。冗談でも、体調がすぐれない人に向かって『新型コロナウイルスだ』などと発言したり、特定の国の人をさして、『あの人は新型コロナウイルスに違いない』とか『うつるからあっちに行け』などと排除するような言葉を発したりすることがないようにしてほしいと思います。これは、大きな人権上の問題で、決して許されないことです。2月14日は本校の『ピンクシャツデー』でした。『いじめをなくそう』『いじわるをされた人を助けよう』という取組を全校挙げて実施している本校では、こうしたことが決して起こることはないと思っていますが、改めて意識してほしいと思います。」

復旧工事の進捗状況について

台風19号による被害の復旧工事については、毎回、通知文でお知らせ申し上げておりますが、先月は、1階の情報コーナーのじゅうたんの張り替え、今月は2週連続の土曜・日曜を利用して、1階視聴覚室及び調理室の天井、1階正面の壁、1階廊下の天井の塗装を行いました。保護者・地域の皆さまには、ご心配をおかけしますが、引き続き、生徒の安全確保を最優先に、授業等の教育活動への影響を最小限にとどめる中で、教育委員会及び関係業者等と綿密な打ち合わせを行い、工事を進めてまいります。皆さまのご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

雅楽の体験学習について

1月11日（土）に「雅楽の体験学習」を行いました。生徒は教科の授業や体験活動で日本の伝統・文化の良さについて学んできていますが、映像や書籍からではなく、直接、本物に触れる機会は何物にも代えがたい貴重な体験であったと思います。

雅楽については、歴史の教科書や資料集、音楽の教科書等に載っているのですが、実際に生で演奏を聴く機会はほとんどないのではないのでしょうか。生徒は、少し寒さを感じる中でも熱心に鑑賞していました。今回お招きしたのは、明治20年に設立されたわが国で最も古い、伝統と格式のある雅楽演奏団体の小野雅楽会の皆さんで、国内にとどまらず、海外でも公演を行われ、高い評価を得ていらっしゃる方々です。



茶道体験について

1月下旬に1年生は、美術の授業で作成した抹茶茶碗を使つての茶道体験を行いました。少し前からの抹茶ブームも影響してか、抹茶に対しての物珍しさはないようですが、世界で一つしかない自分だけの茶碗でいただくお茶は格別の味がしたようです。生徒には、茶碗を抹茶に限らず、日常生活の様々な場面で使い、一生の宝物にしてほしいと思います。



後期学校評価について

2学期末に実施させていただきました後期の学校評価アンケートの結果をご報告いたします。前期と同様に3学年分をまとめた学校全体の数値として掲載させていただきます。また、自由記述として保護者の皆様からいただいたご意見・ご要望等につきましても、その代表的なものを掲載させていただき、学校の考えも併せてお知らせいたします。今回の学校評価の結果を今後の教育活動の改善及び一層の充実に役立ててまいります。ご多用な中、アンケートにご協力いただきましたことに深く感謝申し上げます。なお、学年ごとのデータにつきましては、今後、ホームページでご覧いただけるようにいたします。

ご意見・ご質問	学校の考え
給食の時間が全体で30分というのは、短いような気がします。給食の時間は、心身共に楽しみでくつろげるひと時だと思うので、食べる時間にもう少しゆとりをもたせていただければと思います。	食事はゆとりをもって十分な時間を確保すべきという思いは学校も同じです。残念なことです。が、昼休みの時間や午後の授業、部活動の時間を考えたときに現状の時間設定がぎりぎりのところとなっています。そこで、学級の生徒が協力して準備にかかる時間を短縮し、少しでもゆつくりと食べる時間を確保しようと努めています。教室移動後の給食の時など時間が短くなる時があると思いますが、ご理解いただければ幸いに存じます。
三連休の週末に土曜授業が重なる回数を減らしてほしいです。三連休ならではの楽しみを経験させられないと思います。	土曜授業は、お子様の学校での様子や学校の教育活動の実態をご理解いただく場としての意義があります。府中市立の学校は、教育委員会から年間9回程度実施するように指示を受けて計画を立てますが、運動会及び合唱祭を除いて、代休日を設定しないため、生徒の負担を少しでも軽くするために3連休等に設定することがあります。地域の行事や部活動の大会等の日程との調整の結果、どうしてもその日に設定せざるを得ないこともあります。最初から土曜授業を連休に充てようとの方針をもっているわけではありませんので、ご理解をいただきたいと思います。

ご意見・ご質問	学校の考え
先生方も普通の人間ですので、多少の違いはあると思います。目に見えてのひいきはやめていただきたいと思います。思春期の大事な時期ですので、対応に気をつけてもらいたいと思います。	生徒一人一人を大切にすることは、指導の基本です。特定の生徒のみを優遇しているように受け取られる言動は厳に慎まなければなりません。生徒の考えや気持ちに寄り添い、十分に理解をした上で指導を行い、公平・公正に対応してまいります。
友人トラブルにおいて、「自分は被害者です。」と先生に訴えた方が有利に話を進められて我が子は大変困っておりました。我が子の話しか聞いていないので、全てを理解しているわけではありませんが、もう少しお互いの言い分を聞いてほしいと思いました。	トラブルの解決にあつたては、関係の生徒等から十分に状況を聞き取ることが大切です。そのうえで、関係改善のために、改めるべきことを明確に示し、改善に向けた具体的な行動に結びつけることが重要であり、その際、指導者は公平・公正・中立の立場からの助言と、必要に応じて関係の保護者の方々にも丁寧に状況を説明することが大切であると思います。これからもこの方針の徹底し、今後、同様のことがないように指導の充実を図ってまいりますので、ご理解をいただきたいと思います。
いつもありがとうございます。生徒一人一人に寄り添い、対話を大切にした学校、地域の大人たちであれたらと思います。	教員と生徒の間の信頼は、教員が生徒の考えを十分に聞き、発達段階や生徒の置かれた状況にあった支援ができるかにかかっていると思います。そのために、時間がかかっても生徒の話を聞くことを指導の中心に据え、一方的に教員の考えを押し付けることなく、なぜ、しなければいけないのかを分からせる指導の徹底を図ってまいりたいと思います。
三者面談では、担任の先生とお話しさせていただき、ちゃんと生徒一人一人をわかってくれているなと思いました。先生がしっかりと子供のことをわかって接してくれている様子がわかり、安心しています。	三者面談は、数少ない教員と保護者の方の意思疎通の場です。ついつい課題に目が行ってしまいがちですが、頑張っている点について教員が把握していることをお伝えし、保護者の方とともに喜び合う機会としたいと思います。どうぞ、学校が設定している三者面談の場に限らず、個別の相談については遠慮なくお申し出いただきたいと思います。

